

## 今月のことば

龍谷大学非常勤講師  
小池秀章

「のぞみはありますが、ひかりはあります」と聞いて、どのようなことをイメージするでしょうか。

のぞみは  
ありませんが  
ひかりは  
あります

（新幹線の駅員さん）

実は、この言葉は、心理学者・河合隼雄さんの逸話に基づくものだそうです。河合さんが新幹線に乗るため夜遅く駅に行つた時、駅員さんから「『のぞみ』はありませんが『ひかり』ならあります」と言われたのです。普通なら、単なる終電近くの駅での一コマに過ぎない出来事です。しかし、河合さんは、自殺をほのめかす切羽詰まつた電話を受け、自分が駆けつけたところで何が出来るだらうと思いながら、駅までやつて来たところだったので、この言葉が、違う意味として心に響いてきたのです。河合さんは『無為の力』（P.H.P研究所）の中で、「何もしないことが力を生む」ということを述べ、「何もしないで待つ」というのは大変なことであり、そういう時には、「希望を失わない」ということが大事だと言っています。そして、新幹線の駅員さんの言葉を取り上げ、「それ以来、僕はつらいことがあっても『そうや、望みはなくとも光はあるんや』と思うようになります」と、語っておられます。

また、本願寺派僧侶・江田智昭さんは、『お寺の掲示板』（新潮社）の中で、「仏教的に解釈すると、私たちが『のぞみ』を失つても、仏さまの『ひかり』は私たちを照らしています、と受け取れます」と書いておられます。

仏さまのひかりは、どんな時も私たちを照らし続け、正しい方向に導こうと、はたらき続けてくださっています。そのことを、忘れないでいたいと思います。

合掌